

ユニバーサルサービス政策委員会（第29回） ご説明資料

KDDI株式会社

2022年6月27日

IP網移行期間中のユニバーサルサービス交付金制度に基づく補填額算定の在り方

① IP網移行期間中（令和4年4月～令和6年12月）における交付金算定に、どのようにLRICモデルを適用すべきと考えるか。

例えば、接続料算定に用いるモデルと同一のLRICモデルを用いて交付金を算定するというこれまでの整理を踏襲し、IP網への移行期間中という過渡的な期間に限り適用することも踏まえると、第8次PSTN-LRICモデルと第9次IP-LRICモデルによる算定値の加重平均値を交付金額とする方法が考えられる。

【弊社回答】

- **LRIC方式は、現時点で利用可能な最も低廉で効率的な設備と技術を前提としたネットワークのコストを算定するものであり、非効率性の排除とともに透明性・公平性の確保が可能。**
- ユニバーサルサービス交付金制度に基づく補填額の算定に当たり、非効率性が排除されたLRIC方式を用いることは、**国民経済全体の負担の最小化を図る観点から大きな意義がある。**
- 従って、今回のユニバーサルサービス交付金制度に基づく補填額の算定においても、従来整理を踏襲し、接続料算定に用いるLRICモデルと同一モデルを用いて補填額を算定すること（**第8次PSTN-LRICモデルと第9次IP-LRICモデルによる算定値の加重平均値を補填額とする方法**）が**適当**。

② 第9次IP-LRICモデルを交付金算定に適用する場合、その適用方法についてどのように考えるか。

第9次IP-LRICモデルについては、アクセス網の設備配置ロジックの一部が十分に効率的な設備配置を行えるものとなっていないことから、今後ロジックの改善を図りつつ、当座の交付金の算定に第9次IP-LRICモデルを適用する場合には、アクセス網の設備配置が十分に効率的な設備配置に近付くようにモデル外での補正を行った上でモデルを適用することが、長期増分費用モデル研究会での検討の中で提案されている。

【弊社回答】

- 第9次IP-LRICモデルは、アクセス網の設備配置ロジックの一部において効率的な設備配置を行えるものとなっていないことが判明し、補正すべき課題が存在。
- この点、ユニバーサルサービス料については利用者負担抑制の重要性の観点も踏まえ、長期増分費用モデル研究会にて提案されたモデル外補正を採用することは妥当。

<長期増分費用モデル研究会におけるモデル外補正案に対する弊社評価>

- ✓ LRICモデルの見直しには相応の検討期間を要することから、当座の対応として簡易的な補正を用いることに妥当性がある
 - ✓ NTT東西の実際網の設備配置を参考とすることで、モデル本来の目的である効率化（コスト最小化）が図られており、一定の合理性が認められる
 - ✓ コスト比較によるアクセス網の設備配置ロジックに限定されており、その他設備との整合が図られている
- なお、アクセス網の設備配置ロジックについては、IP化のさらなる進展や技術革新を踏まえ、必要に応じて次期モデル以降にて見直しを行うことが適当。

「つなぐチカラ」を進化させ、
誰もが思いを実現できる社会をつくる。

KDDI VISION 2030

